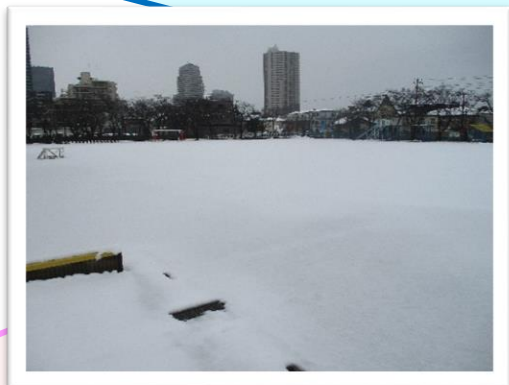


○立春が過ぎて間もなく、関東地方に3～5cmの積雪があった2月6日(火)に、第3回学校運営協議会が行われました。(本校校庭も、真っ白でした。)



○まずは、教務主任から、今年度の学校評価アンケート(子ども、保護者・地域、教職員)の結果と考察について報告し、委員の方に、今年度の本校の教育成果について認識していただきました。

[主な内容について]

- ・子ども、保護者・地域、教職員共に、ほとんどの項目において例年どおり、肯定的な評価(A:そう思う、B:だいたいそう思う)が、9割を超える高い水準である。
- ・本校の子どもは、学校生活を「楽しい」と感じている子が多く、「授業が楽しい」「友達と仲よくし、協力して生活している」と思う子が増えている。
- ・反面、子どもたちは「自分の思ったことを、はっきりと話す」ことができない・できていないととらえている割合が、昨年度よりも増えている。
- ・保護者の「学校は、個に応じた指導を行っている」という項目において、この数年間、他の項目よりも低い値で推移している。
- ・教職員は、子どもの課題を「たくましい子の育成」、教職員の課題を「ICTの更なる利活用」ととらえている。 etc.

○そこで、委員の方々に、学校の授業を参観・参加していただきながら、**学校の「実際の様子」について、確認していただくことになりました。**



○3年生のG・Sでは、日本や外国の遊びから、その相違点に気づき、ALTや仲間と伝え合う活動に、一緒に参加・体験してくださいました。

○4年生の理科では、子どもたち自らが、課題を解決するためのデータを収集している」活動とともに、器具の利便性や実験の安全性についても感心されていました。



○算数の習熟学習を、子どもたち自らが、タブレットPCを使って行っている様子に、「釘付け」の委員の皆様。練習問題を、どんどん解いている姿に、PCのよさを実感されているようでした。



◎教頭から、教室に設置されている実物投影機(フロッジェクター)とその実用方法について説明を受け、ここ数年での教育環境の劇的な変化に感心されておられました。



◎1年生が図工の時間、材料の性質やよさに着目しながら、自分の発想を広げ、自分の創造したものを、自由に作り上げていました。そして、工夫したところを、たくさん教えてくれました。



◎「どのクラスの子どもたちも、真面目に、楽しそうに、学習をしている姿が見られ、よい学校であることがうかがえました。」という、ありがたいお言葉を、委員の皆様からいただきました。



○参観後、校長から、本校の今年度の学校自己評価について、資料を基に説明をしました。(資料〔学校自己評価システムシート〕については、外部評価終了後、3学期末にHPに掲載予定。)
特に、「**次年度への課題と改善策**」について説明し、委員の皆様から御意見や評価を受けました。

【主な、説明事項】

- ・子どもの学習面においては、「できる・できない」の二極化を課題として捉え、できない子どもへ手立てについて、研究・実践していくことが必要である。
- ・さいたま市が推進する「学びのポイント「じ・し・ゃ・く」」「個別最適な学び・協働的な学び」を軸とした授業改善を、学校課題研究を中心に推進していく。
- ・引き続き、子どもの気付きや意欲を重視した「体験・実感」の伴った学習活動を推進するために、地域に開かれた教育課程を再編成していく。
- ・体育的行事や業間運動は勿論、体育の授業では運動量の確保と、運動する喜びが味わえる活動となるよう、工夫・改善を図っていく。
- ・異学年活動やロング集会、低学年交流学習の実施回数を増やしたことで成果が得られたことを生かし、今後も子ども同士のかかわりを大切に学習や活動を、継続していく。
- ・月1回の生活朝会を通して、月別生活目標の取組を実践するとともに、子ども自身に評価する場面を適宜与えていきながら、子ども自らが「気付き・考え・行動する」ことができるようにしていく。
- ・心と生活のアンケート結果から教育相談の対象になった子どもたちを中心に、引き続き個々のもつ課題をよく理解しながら、その課題に寄り添ったかかわりを行っていく。
- ・今年度から導入した、学校だより等のデジタル配付を軸とし、今後も学校HPを、更なる情報発信拠点として利活用していく。
- ・次年度は、50周年行事実施に即した学校行事等が、適切に行われるよう計画していく。

◎主な、御意見等について

- ・「学力の二極化」については、やる気の出ない子どもを学習に向かわせるのは決して簡単な事ではないので、学校の今後の取組に、大いに期待したい。
- ・家庭で、我が子が隣のクラスの担任から学んだことを話すことが増えた。高学年が行っている教科担任制の授業は、子どもの発達段階や関心事に合わせて、よい取組のように思える。
- ・教育活動参観時にも紹介があったが、学校のタブレットを使った授業だけでなく、プロジェクターによる画像投影など、学校現場の進化が、ここ数年で一段と飛躍したように思われる。昔の学校教育とは違うところに、驚かされることばかりであった。
- ・教職員が、子どもの思いや願いをしっかりと汲み取って、その時の状況に応じながら弾力的に教育活動を行っていることに、感謝の思いしかない。学校が行っている努力を、是非、保護者・地域に発信して欲しい。それが、家庭や地域でさらに協力できることにつながっていくと思う。
- ・学校から配信される校外学習に係る安心メールでの連絡は、とても感謝している。各種たよりが学校HPによる閲覧になったことは、いつでもどこでも見られるよさがある反面、紙による配付の方が、じっくりと読めるよさがある。



●特に、話題になった事項が、

「子どものSNSの利用について」でした。

・道徳の授業で、子どものSNSトラブル防止のための指導はしているのか。

⇒道徳の時間だけでなく、講師を招聘した安全教室や、映像教材を活用した学年集会での指導など、学校では、適宜・適切に行っている。

・我が子が、子ども同士のLINEトラブルに巻き込まれてしまう恐れがあることに、とても心配している。

⇒本来なら、子どものスマートフォンの使用は、親の管理下で行っているものであり、親が我が子にモラルを躾けることではないか。我が子にスマートフォン等を与えるのであるなら、親子でのルールをしっかりと決めて守らせるだとか、親がSNSの利用を注意深く確認していくなど、親の責任としてしっかりと取り組んでいる家庭も多いと思う。

・地域で生活する子どもの姿からも、スマートフォンの使用については、心配な面が見られる。児童センター内でも、子どもが勝手に動画を撮り合っている姿を見ると、どこまで声を掛けてよいのか、ためらう場面がある。

⇒現代社会において、欠かすことができなくなったSNSであるからこそ、学校・家庭・地域が協働して、子どもの健全育成に取り組んでいく必要がある。



○そこで、本運営協議会の「新たな取組」として、「**子どもの正しいSNS利用に向けて**」という議題を、次の課題として取り上げることが決定しました。

○また、本運営協議会の今年度の取組の重点である「自分から挨拶ができる子どもを、育てよう。」の具現化を図るために、学校・家庭・地域が一体となって取り組む活動について確認しました。

①引き続き、学校だけでなく、保護者、地域として、与野八幡小学校の子どもが、「自分から挨拶ができる」子どもに育つよう、それぞれの立場で取り組むことを、継続して行っていく。

②「学校・保護者・地域が一体となって、協働して行う取組」については、来年度、本校でこれまで行ってきた「挨拶運動キャンペーン」に、保護者・地域が協働して、新たな取組として行っていく。

ことで合意し、今年度の運営協議会を終了しました。

○委員の皆様、「**地域とともにある学校**」の推進に御協力くださり、ありがとうございました。来年度も、引き続き「**学校を核とした地域づくり**」に、共に努めてまいりましょう。

